

## 第4回 のむら復興まちづくりデザインワークショップを開催しました！

## ■第4回ワークショップの開催

西予市復興まちづくり計画に基づき、野村地域の復興まちづくりについて、市民の皆様と話し合いを深めながら検討を進める場として、「第4回 のむら復興まちづくりデザインワークショップ」を開催しました。

愛媛大学 社会共創学部 松村 暢彦教授の進行のもと、愛媛大学や東京大学の学生の皆様の協力を得て、参加者の皆様から様々なご意見をいただきました。

## 【第4回 のむら復興まちづくりデザインワークショップの開催概要】

日時：2019年8月22日(木) 19:00～

会場：西予市野城総合福祉協会「野城ふれあい館」

主催：西予市

協力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体

参加者：29名（野村地区自治会、社会教育団体等の公的団体代表者、西予市内在住者 等）

進行補助：愛媛大学、東京大学の学生

主な内容：

○第3回野村復興まちづくりデザインワークショップの振り返り

○グループワーク①

テーマ①：**肱川（宇和川）と川沿いの空間整備・活用案**

✓ 第3回ワークショップでみなさまからいただいた意見をもとに、愛媛大学・東京大学で作成した整備案を提示し、整備案や更なる提案に関する意見交換

○グループワーク①の発表

○グループワーク②

テーマ②：**商店街の活性化と野村の文化継承**

✓ 第2回ワークショップの意見や河川空間の整備案を踏まえながら、商店街の活性化と野村の文化継承に向けた活動や整備のアイデアについて意見交換

○グループワーク②の発表

○次回開催日（9月25日（水）19:00～、場所：西予市野城総合福祉協会「野城ふれあい館」）



主旨説明



グループワーク



グループワークの発表



意見の貼付け

## ■ワークショップの開催結果

今回のワークショップでは、5つのグループに分かれて、テーマごとに意見を出し合ったあと、全体での発表を実施しました。

「肱川（宇和川）沿いの空間整備・活用案」に関しては、大学から提示された整備案に対して概ね前回の意見が反映された案であるという意見が見受けられ、更なるアイデアや実現に向けた課題等があげられました。

「商店街の活性化と野村の文化継承」については、野村特有の資源の活用、お酒や相撲のイメージ活用・PR強化、高校生の活躍の場の創出など、様々なアイデアをいただきました。

## ■ワークショップの意見の一例

ワークショップの開催結果として、グループごとにいただいた意見の一例を示します。

### ■テーマ①：肱川（宇和川）と川沿いの空間整備・利用案

#### ■河川整備に関する意見の一例

- ・河川の断面を広げて、水辺で遊べるようになって欲しい。
- ・子どもが川に近づける（入れる）ようになれば良い。
- ・川を広げるのは理想だが、土地の問題がある。
- ・川を広げると広場が狭くなるのでは。
- ・河川を掘り下げて欲しい。

#### ■乙亥・まちなかエリア（乙亥会館周辺）に関する意見の一例

- ・野村の酒文化・差し合い文化を残すためにも酒造産業を残す。
- ・酒蔵の見学や試飲ができるような施設にする。
- ・軽トラ市や既存のイベント会場として、屋根付きの広場などができれば良い。
- ・温浴施設の復活を望む。

#### ■レクリエーションエリア（野村体育館跡地周辺）に関する意見の一例

- ・体育館がなくなることから、屋内と屋外の融合した施設（簡易な屋根など）を望む。
- ・親子でボールを使った遊びができる広場をつくる。
- ・キャンプ場として、コテージを併設して雨でも利用できるように。

#### ■自然と憩いのエリア（右岸側：氏宮川から三嶋神社周辺）に関する意見の一例

- ・楽しく、水とふれあうことができる場所になれば良い。
- ・遊具などの配置も検討して欲しい。
- ・野村高校の地域ファームの取組。子どもたちが小動物（うさぎ、にわとり等）と触れ合う場とする。

### ■テーマ②：商店街の活性化と野村の文化継承

#### ■1班で出た意見の一例

- ・手すき和紙や織物のプチ体験などができる。
- ・まちなかで、お茶や囲碁を楽しめるオープンスペースの確保。
- ・幅広い年齢層が集まり、互いの交流を生み出すことで、必要とされる存在や文化継承につながる。
- ・高校生によるカフェなど、若者が活躍する場所。

#### ■2班で出た意見の一例

- ・酒と相撲をさらにとり上げる。ミルクとシルクのイメージを発信する。
- ・酒蔵を活かす（インスタ映えする空間、特産品販売、お酒とスイーツを楽しむ場 等）。
- ・気楽に集まれて避難所にもなる施設。
- ・空家を活用して宿泊施設とする。

#### ■3班で出た意見の一例

- ・既存の商店街のイメージを変えて利用を促す（市全体でポイントカード、野村ならではの商品等）。
- ・店の集約を図り、高齢者や子育て世代が買い物しやすい空間へ。
- ・飲み物の文化の継承が大事なので、飲み屋の復活を！
- ・巻きようかんなどに誇りを持つ。

#### ■4班で出た意見の一例

- ・「飲む村、のむら」として酒蔵の復活に期待。
- ・町並みの景観を統一して、のむらのイメージづくり。
- ・ブラックバスやジビエ、桑の実など、野村ならではの資源を活かした特産品を開発する。
- ・地元の中高校生に商店街で職場体験をしてもらい、担い手の確保につなげる。

#### ■5班で出た意見の一例

- ・シルクのまちをPRするネタとして、桑の実を食べる場所を。
- ・昼はカフェ、夜は居酒屋といった有効活用…出店しやすい工夫や支援策を。

- ・野村高校のマイ（自分）プロジェクトを後押しできるように。
- ・チャレンジショップや大学生の研修など、若い人が来るきっかけづくり。